

新春 須磨西六甲縦走路 旗振り山へ初歩き 2018.1.4.

高倉山・鉄拐山から旗振り山へ 帰りは一の谷を須磨浦へ降りる

By Mutsu Nakanishi





鉄枔山山頂 大阪湾全体のパノラマが見られる大展望所 2018.1.4.
南から南へ 六甲連山・神戸の市並み そして大阪湾に沿って広がる大阪から泉南・和歌山沿岸の大展望



大阪湾全体のパノラマが見られる大展望所 鉄枔山山頂 2018.1.4.
高倉台の住宅地 正面に六甲連山・神戸の市並みが見えてくる
左手手前には 横尾・桐原山、その奥は高倉台、手前から高倉山・高倉山・神戸の市並み・高倉山



鉄枔山山頂からの大展望 2018.1.4.
南から南へ 六甲連山・神戸の市並み そして大阪湾に沿って広がる大阪から泉南・和歌山沿岸の大展望



東側の展望: 六甲の山並み中央に高倉台の住宅地が見えてくる。南には神戸の市並み・大阪湾が広がっている。六甲全山縦走路の西の端旗振り山へ向かう。2018.1.4.



鉄枔山より、西六甲全山縦走路の山々を眺める 2018.1.4.
左手手前に高倉山 高倉台の住宅地を挟んで 横尾・桐原山の須路アルプス
その奥ろ写真正面に高倉山・高倉台の見える高倉山・高倉台の市並み
そして東六甲の山並みが見え立ちはだかる



北側の展望: 須路名谷ニュータウンが広がり、その奥に西神戸の泉南・神戸の市並み・高倉山・高倉台がどうしりと見えている。2018.1.4.



【動画:56sec】2018年1月4日 大阪湾の大展望



鉄枔山から全山縦走路の西の端旗振り山へ向かう <1> 2018.1.4.



鉄枔山から全山縦走路の西の端旗振り山へ向かう <2> 2018.1.4.



群生するツバキの林の中を縦走路、いつもの観音路 鉄枔山の下へ 2018.1.4.



全山縦走路の西の端 旗振り山山頂 正面に淡路島・明石海峡・明石太橋
六甲連山が明石海峡に落ちる西の端 摂津/播磨の国境である 2018.14



新春のひざしに輝く須磨の海 淡路島・明石海峡 旗振り山 <1> 2018.14.



新春のひざしに輝く須磨の海 淡路島・明石海峡 旗振り山 <2> 2018.14.



ふと頭を浮かんで、久しぶりに 一の谷を降りて 須磨海岸へ出て 網敷天満宮・須磨寺を巡って帰る



旗振り山から一の谷を下って 須磨海岸へ
網敷天満宮・須磨寺へ寄って帰る 2018.14



須磨 源平の古戦場 一の谷
旗振り山の南東側 林の中を崖が鋭く谷筋の山腹のトフバース道 校舎根を登さながら下る。
「一の谷の逆さとし」 こんな崖をよくも降りたなあ...と思う谷筋である。 2018.14.



須磨 源平の古戦場 一の谷
意外な崖が鋭く見えるが、震災で崩壊したところ 下は崖で谷にはおられない
崖に沿って 急な尾根道を下って 尾根筋を南の須磨海岸へ下ってゆく。 2018.14.



須磨 源平の古戦場 一の谷
急な階段道を下ると また林の中 寄手堀・四方堀のすぐ横に出た。
真つすべ胸の須磨海岸へ下ってゆく。 2018.14.



須磨 源平の古戦場 一の谷
源平の戦の伝承地 一の谷、かつて輪水正成が敵味方両方の戦死者を弔うため、寄手堀・四方堀
を作った古事に因って、第二次世界大戦の戦没者慰霊のために作られたという。
ここを下ると一の谷町。 悲劇の幼帝安徳天皇の内裏の伝承地 2018.14.



林の中 一の谷の山道を抜けるととぼと正都に海が見える一の谷町の住宅地
また、海はづんと下の高台 一の谷の出口 一の谷町の住宅地 眼下に海が見える 2018.14.
住宅地の一角に大きな群衆の見える一の谷公園があり、この地が悲劇の幼帝安徳天皇の内裏の伝承地



一の谷町にある安徳天皇内裏の伝承地の南側入口 2018.1.4.

後ろは、台割ってきた源頼朝山から鉄振山の山並みが見える一の谷である。また、約90mの立派な高台の住宅地の中、一の谷公園として安徳天皇内裏の伝承地が整備されている。



一の谷公園 安徳天皇内裏の伝承地 2018.1.4.

一の谷跡地にはかつて源頼朝が作られた場所、大きな群衆がその名残である。



安徳天皇内裏の伝承地 一の谷公園 安徳天皇の冥福を祈って参拝者がまつられている。 2018.1.4.



一の谷公園からは 西に ロプウェイがかかる蘇伏山・その奥に旗振り山が見えている 2018.1.4.



一の谷町はまだ標高50m以上ある高台の住宅地。眼下には、須磨浦との狭い間を走り抜けるJR・山陽電車そして国道2号線が走りぬけてゆくの見える。正面は須磨浦、海釣り公園の向こうは紀淡海峡。和歌山の山並みと細島の島が遠くかすんでいる。



一の谷町九十九折れ階段より 須磨の浦

眼下には須磨浦との狭い間を走り抜けるJR山陽電車そして国道2号線が走りぬけてゆくの見える。正面は須磨浦、海釣り公園の向こうに紀淡海峡が遠望。ここから九十九折れの階段を海岸の線路さきわまで降りて須磨浦の海岸へ出る。



一の谷町九十九折れ階段より 須磨の浦 2018. 1. 4. 須磨浦海岸



須磨浦海岸より紀淡海峡遠望 2018.1.4.

和歌山の山並みがかすむ右が紀淡海峡。そして、海峡に浮かぶ友が島が遠くみえている。



須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には、町の人たちが植えた水仙が満開に。 2018.1.4.



須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には水仙が満開に。 2018.1.4.



須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には水仙が満開に 2018.1.4



須磨浦海岸に出ると市街後4時前
JRと山陽電車が挟まれた狭い海岸を国道2号線が抜けてゆく 2018.1.4.



一の谷を流れ下ってきた一の谷川



国道2号線を東へ 須磨駅周辺のR2 2018.1.4.



須磨の山並みの山麓 須磨寺の三重の塔 2018.1.4.夕



須磨の山並みの山麓 須磨寺の三重の塔 2018.1.4.夕



須磨寺の墓地を抜けて 北側の出口へ帰りを急ぐ 2018.1.4.夕



© 2017 ZENRIN
海釣り公園



旗振り山から一の谷を下って 須磨海岸へ
網敷天満宮・須磨寺へ寄って帰る 2018.1.4